

# 1 章 舗装工

- 1.1 不陸整正
- 1.2 路盤工
- 1.3 アスファルト舗装工
- 1.4 コンクリート舗装工
- 1.5 転圧コンクリート舗装工
- 1.6 排水性アスファルト舗装工
- 1.7 透水性アスファルト舗装工
- 1.8 グースアスファルト舗装工
- 1.9 薄層カラー舗装工
- 1.10 橋面防水工

# 1章 舗装工

## 1.1 不陸整正

### 1. 適用

アスファルト及びコンクリート舗装工等の不陸整正に適用する。

### 2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。  
なお、補足材が必要な場合は、その対象面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施工 箇所	規 格	単 位	数 量	備 考
不陸整正	○	×	m <sup>2</sup>		
補 足 材	○	○	m <sup>2</sup>		厚さ(mm)も算出する。

#### (2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

## 1.2 路盤工

### 1. 適用

アスファルト及びコンクリート舗装工等の路盤工に適用する。

### 2. 数量算出項目

下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、路盤厚、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施 工 箇 所	路盤厚 (mm)	規 格 (材料)	単 位	数 量	備 考
下層路盤	○	○	○	m <sup>2</sup>		
上層路盤	○	○	○	m <sup>2</sup>		

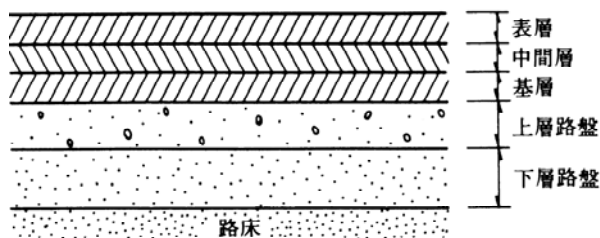
#### (2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道、情報ボックス部等の施工箇所ごとに区分して算出する。  
なお、車道と路肩を分離施工する場合はそれぞれに区分して算出する。

#### (3) 路盤厚区分及び規格区分

路盤の厚さ及び材料の規格（粒調碎石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。

(アスファルト舗装の構成例)



## 1.3 アスファルト舗装工

### 1. 適用

アスファルト舗装工に適用する。なお、舗装版取壊しから舗設までを急速施工する現道打換工事については「3.4道路打換工」による。

### 2. 数量算出項目

上層路盤（アスファルト合材を用いる場合）基層、中間層、表層の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工幅とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施工 箇所	舗装厚 (mm)	規格 (材料)	施工幅	単位	数量	備考
上層路盤	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		材料がアスファルト合材の場合
基層	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
中間層	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
表層	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

#### (2) 施工箇所区分

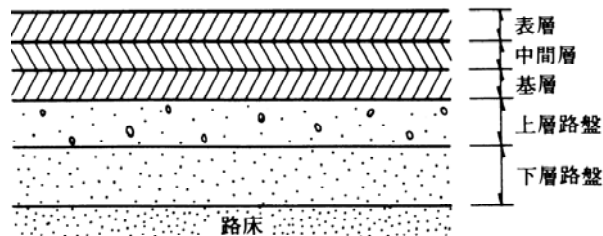
本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

なお、車道と路肩を分離施工する場合はそれぞれに区分して算出する。

#### (3) 舗装厚区分及び規格区分

舗装の厚さ及び材料の規格（再生密粒As13、再生粗粒As20、再生As安定処理路盤等）ごとに区分して算出する。

（アスファルト舗装の構成例）



#### (4) 施工幅区分

施工幅（W）による区分は、下記のとおりとする。

- ①  $W > 3.0\text{m}$
- ②  $1.4\text{m} \leq W \leq 3.0\text{m}$
- ③  $W < 1.4\text{m}$

## 1.4 コンクリート舗装工

### 1. 適用

コンクリート舗装工（転圧コンクリート舗装工は除く。）に適用する。

### 2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。  
 なお、路盤の数量は、「1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「1.3 アスファルト舗装工」により算出する。  
 また、セメントコンクリート舗装要綱に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、目地数量の算出を要しない。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### 1) コンクリート舗装

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
コンクリート舗装		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
鉄筋鉄網		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		舗装100m <sup>2</sup> 当たり
補強鉄筋鉄網		○	○	○	○	t		〃
端部鉄筋鉄網		○	○	○	○	t		〃

##### 2) 縦目地

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
タイバー		○	○	○	○	本		目地1000m当たり
ねじ付タイバー		○	○	○	○	本		〃
クロスバー		○	○	○	○	kg		〃
チェアー		○	○	○	○	個		〃
目地板		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		〃
注入目地材		○	○	○	○	kg		〃
シール材		○	○	○	○	kg		〃
木材又はL型プラスチック材		○	○	○	○	m		〃

(注)セメントコンクリート舗装要綱に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、上表の目地数量の算出を要しない。

##### 3) 横目地

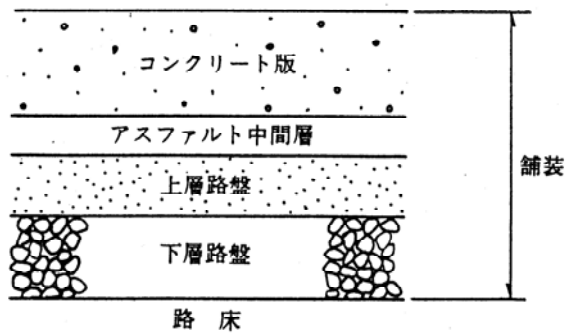
項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
スリップバー		○	○	○	○	本		目地1000m当たり
キャップ付スリップバー		○	○	○	○	本		〃
クロスバー		○	○	○	○	kg		〃
チェアー		○	○	○	○	個		〃
目地板		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		〃
注入目地材		○	○	○	○	kg		〃

(注)セメントコンクリート舗装要綱に規定される標準的な目地間隔を有する場合は、上表の目地数量の算出を要しない。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(コンクリート舗装の構成)



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

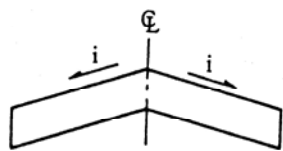
施工方法	
機械施工	① 1車線施工
	② 2車線同時施工
人力施工	

注) 1. 施工方法は、路面の横断勾配で判断する。

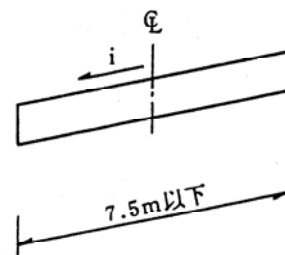
① 1車線施工 (a)、(b)

② 2車線同時施工 (c)

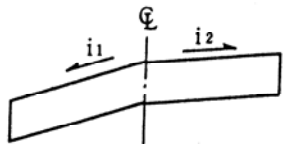
(a)



(c)



(b)



## 1.5 転圧コンクリート舗装工

### 1. 適用

転圧コンクリート舗装工（RCCP）に適用する。

### 2. 数量算出項目

転圧コンクリート舗装の面積を区分ごとに算出する。  
 なお、路盤の数量は、「1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、作業とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

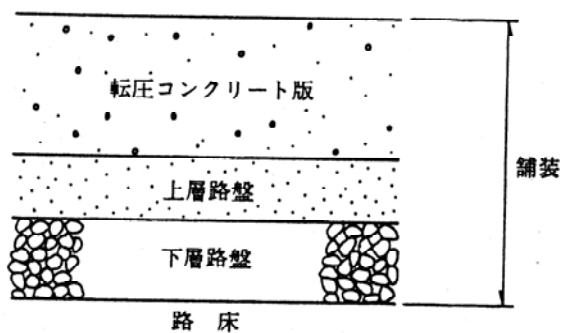
区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規格 (材料)	作業	単位	数量	備考
転圧コンクリート舗装	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

注) 1. 型枠が必要な場合は設置延長 (m) を算出する。

#### (2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(RCCP舗装の構成)



## 1.6 排水性アスファルト舗装工

### 1. 適用

車道における排水性アスファルト舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工幅とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	施 工 箇 所	舗 装 厚 (mm)	規 格 (材料)	施 工 幅	単 位	数 量	備 考
排水性アスファルト舗装	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
導水パイプ	○	—	○	—	m		

(注) 導水パイプの数量は、排水性アスファルト舗装の区分ごとに舗装面積100m<sup>2</sup>当り必要量を算出する。

#### (2) 施工箇所区分

本線、副道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

#### (3) 舗装厚区分

排水性アスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

#### (4) 規格区分

材料の規格を示すとともに、空隙率も示す。

#### (5) 施工幅区分

施工幅(W)による区分は、下記のとおりとする。

- ①  $W \geq 2.4\text{m}$
- ②  $1.4 \leq W < 2.4\text{m}$
- ③  $W < 1.4\text{m}$



## 1.7 透水性アスファルト舗装工

### 1. 適用

歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。  
なお、路盤の数量は、「1. 2路盤工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、舗装厚、敷設厚、規格、施工幅とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分						
	舗装厚	敷設厚	規格 (材料)	施工幅	単位	数量	備考
フィルター層	—	○	○	—	m <sup>2</sup>		
透水性アスファルト舗装	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		

#### (2) 舗装厚区分

透水性アスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

#### (3) 敷設厚区分

フィルター層面積を敷設厚ごとに区分して算出する。

#### (4) 規格区分

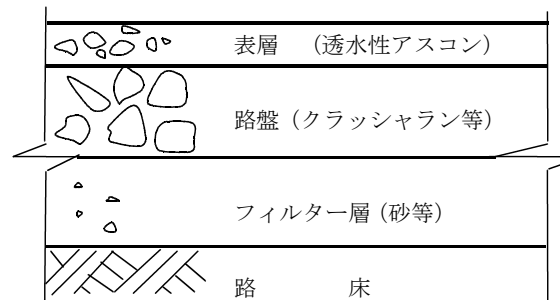
材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）も示す。

#### (5) 施工幅区分

透水性アスファルト舗装の施工幅（W）による区分は、下記のとおりとする。

- ①  $W \geq 1.4\text{m}$
- ②  $W < 1.4\text{m}$

(透水性アスファルト舗装の構成例)



## 1.8 グースアスファルト舗装工

### 1. 適用

グースアスファルト舗装に適用する。

### 2. 数量算出項目

グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、舗装厚、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考
グースアスファルト舗装	○	○	m <sup>2</sup>		
プレコート砕石	—	○	kg		
目地材	—	○	m		

#### (2) 舗装厚区分

グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100m<sup>2</sup>当り必要量を算出する。

## 1.9 薄層カラー舗装工

### 1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格・舗装厚とする。

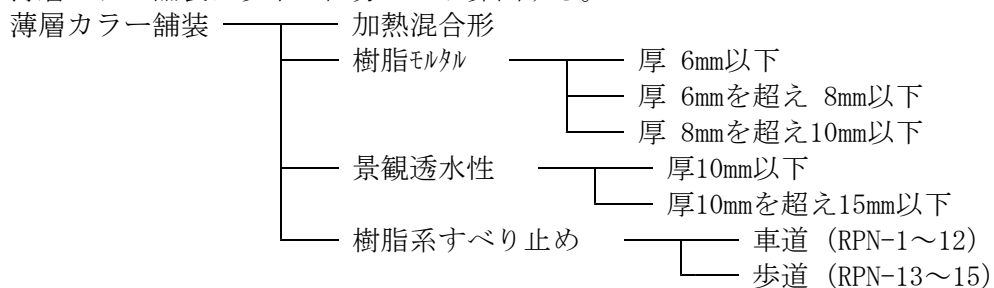
#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考
薄層カラー舗装	○	m <sup>2</sup>		

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

#### (1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。



(注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様（高輝度タイプを含む）・施工（全面・ゼブラ等）別に区分して算出する。

2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

#### (2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3アスファルト舗装工」による。

## 1.10 橋面防水工

### 1. 適用

シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系・合成ゴム系）による橋面の防水工に適用する。

### 2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
橋面防水	○	m <sup>2</sup>		
ドレーン材	○	m		防水100m <sup>2</sup> 当たり
目地材	○	m		〃

#### (2) 規格区分

シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。